

鎌倉市医師会が発する、気候非常事態宣言の背景

コロナ禍の陰に隠れ十分な報道がされていないが、世界各地で記録的な高温、熱波、山火事、海面上昇、洪水などの異常気象が頻発し、生態系の崩壊により多くの人間、動植物が犠牲になっている。

「ランセット・カウントダウン」は医学誌ランセットが主宰するプロジェクトで、24の大学、WHOなどの国際機関が参加し、気候変動による健康への影響を分析し、毎年公表している。2020年12月に公表された最新の報告書によれば65歳以上の熱中症関連の死亡率はその前の20年間に比べて53.7%上昇し、デング熱やマラリア感染症も増加したと報じており、自然環境の劣化は生態系破壊とCOVID-19のような感染症の拡大を招くと警告している。

2019年10月には世界医師会（World Medical Association）は気候非常事態宣言を採択し、国際的な医療分野の関係者に気候変動に関連した市民の健康保全に全力を挙げるよう呼びかけた。各国の医師会、地域の医師会もこれに沿って、気候非常事態宣言を発し、国、地域での市民への啓発活動や行動を起こし始めた。気候危機が地球上の人々の健康的な生活に著しい脅威であることを認識し、健康への影響を最小化することは医療人としての責務と言える。

今日、世界の34ヶ国の1890を超える自治体が気候非常事態宣言を行っている。日本の国会は2020年11月19、20日に衆参両院で気候非常体宣言を全会一致で可決した。鎌倉市議会は2019年10月4日に気候非常事態宣言を決議し、鎌倉市は翌20年2月7日に宣言を行った。また鎌倉市は2021年2月には2050年カーボンニュートラルを目標とし、既に市の施設で使用する電力の30%を自然エネルギー由来の電力に切り換えた。

以上の様な国内外の情勢を鑑み、本会は2021年3月26日に開催された第180回総会での決議に基づき、人類の直面する気候危機を認識しサステナブルな医療サービスの提供のため、気候非常事態宣言を会長名で発する。